

社会教育

ふくしまを十七字で奏でよう 表彰式



令和5年度「ふくしまを十七字で奏でよう」表彰式

CONTENTS

- ◆ 特集 1
「ふくしま絆ふれあい支援事業」
- ◆ 論説1 3
「17字のふれあい事業」誕生つれづれ
新地町教育委員会 教育長 佐々木 孝司 氏
- ◆ 論説2 4
「崩壊」と「創世」の狭間で
～原子力災害から13年の福島を語る意味～
NPO 法人富岡町3.11を語る会 代表 青木 淑子 氏
- ◆ 輝け社会教育 5
津田 智 氏 (郡山市)
森 武久 氏 (会津若松市)
国見町公民館
会津若松市大戸公民館
郡山市立芳山小学校父母と先生の会
喜多方市立堂島小学校父母と教師の会
矢祭もったいない図書館
佐藤 史生 氏 (相馬市)
郡山市家庭教育支援チーム のびのび子育てサポーター
- ◆ 令和5年度社会教育関係各種受賞者
令和6年度福島県社会教育施設行事予定 10



賞状伝達



作品発表



特集～届けたい 未来へつなぐ 十七字～

令和5年度ふくしまを十七字で奏下よう

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復旧を願って「ふくしま」への思いなどを親子や友達同士のペアにより、十七音で表現した作品を募り、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図りました。

「絆部門」「ふるさと部門」の優秀作品を表彰しました。最優秀賞（各部門5組）、優秀賞（各部門5組）、佳作（各部門10組）の中から最優秀賞10組を御紹介します。

絆部門 最優秀賞

お父さん いっしょに食べよう オンライン
 福島市立蓬萊東小学校四年 小澤 乙輝(子)
 いただきます 単身の夕げに 子の笑顔
 ひどり
 小澤賢太郎(父)

今日の歌 じいじのはん定 どつきどつき
 中島村立吉子川小学校三年 仁科 陽翔(孫)
 今日もまた 判定悩む 風呂の中
 仁科道夫(祖父)

おてつだい おさうあらいは まかせてね
 南相馬市立石神第二小学校二年 北内 康裕(子)
 キッチンに ふみ台ひとつ 笑みふたつ
 北内 安有美(母)

ぼつぼつと ばあちゃんだけには 話せちゃう
 須賀川市立第二中学校一年 遠藤 かのん(孫)
 聞くだけで 孫の表情 柔らかく
 遠野 初江(祖母)

青春の 銀色フルート 娘へと
 長瀬 有佳(母)
 響かせて 母の青春 受け継いで
 いわき市立小名浜第二中学校二年 長瀬 叶穂(子)

ふるさと部門 最優秀賞

しんきろう 只見線が 連れて来る
 只見町立只見小学校五年 増田 琉気(子)
 こだまする 踏み切り音と セミの声
 おん
 増田 美奈(母)

野馬おいに ぼくも出たいな とうさんと
 相馬市立山上小学校四年 伊藤 新一郎(子)
 背に指した 旗の重さも 伝えたい
 伊藤 貴之(父)

町並みの ひとつひとつが 資料館
 福島県立会津学鳳中学校一年 石田 晴(子)
 ふるさとの 思い出巡り 語りべに
 石田 由紀子(母)

ふるさとを どこか知らずに 十二年
 南相馬市立鹿島中学校三年 高田 ゆき(子)
 あの日から 行く先々が ふるさとに
 高田 真喜子(母)

伊達の桃 一桃一会 国宝級
 大山 敦子(母)
 そぼあげる ぶつだんのもも いいかおり
 東京都府中市明星小学校二年 大山 友梨夏(子)



特集～届けたい 未来へつなぐ 十七音～

語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」

県内9校で語り部の講話を聴き、震災や復興の現状について学びました。その後、「ふくしま」への思いや願いを十七音で表現し、心の復興にもつなげることができました。



【伊達市立大田小学校】



【三春町立岩江小学校】



【南相馬市立鹿島小学校】



【郡山市立明健中学校】



【白河市立白河第二中学校】



【埴町立埴小学校】



【南会津町立館岩中学校】



【会津美里町立高田小学校】



【浅川町立浅川小学校】

参加者の声

- 語り部の方から聞いた話の内容を家族にも伝えようと思いました。
- 津波の怖さや人とのつながりの大切さについて改めて知り、これからどうしていくか考えるきっかけになりました。
- 震災で人と人とのつながりの大切さについて知りました。
- 震災であったことを詳しく知ることができました。怖い事、苦しい事もあったけど、絶対に忘れちゃいけないなと思いました。
- 話を聞いて災害などが起こった時に助け合うためにも、普段の人付き合いが大切だと分かり、これからも人との繋がりを大切にしたいと思いました。
- 人との絆が大切になることを知りました。人の心の復興には、まだまだ時間がかかるけど震災にあった人の心をあたためてあげたいです。
- 忘れてはいけないことで、私はそれを後世に伝えていきたいです
- まだ生まれていなかったけれど、震災のことを知れて良かったです。友達関係も大切だということや震災の辛さなどがわかり、忘れないようにしたいです。



「17字のふれあい事業」 誕生つれづれ

新地町教育委員会教育長 佐々木 孝司



平成13年7月、教育改革の一環として「社会教育法」と「学校教育法」が改訂され、青少年の社会奉仕活動や自然体験活動の大切さが条項に盛り込まれました。児童・生徒及び青少年や大人までが動画視聴やオンラインゲーム等の内なる「受け身の姿勢の遊び」に夢中になる生活環境が主になりつつあり、一方、外なる世界での体験活動の減少や人間同士の関係性が希薄化し、コミュニケーション力は低下しました。子どもたちは、変化の激しい現代社会を生き抜く力が身に付かず、身近な人との対話も少なくなり、人間関係を円滑に保てない状態に陥りました。改訂は、それに対応するための手段でもありました。学校・家庭・地域社会が三位一体となった自然体験活動やボランティア活動等がクローズアップされ、翌年からは各地で数多くの実践が行われました。

教育活動を行う場合に必ず付随するのは評価です。県教育庁の社会教育担当者は事業の企画段階から評価の在り方を繰り返し討議し、評価としてはユニークですが「17字のふれあい事業」を次の趣旨で立ち上げ、平成14年度から開始されました。

- ① 大人と子どもが自然体験活動やボランティア活動等で体験し、感動したことを俳句形式で表現（自己評価）する。
- ② ペアで創作し、作品をディスカッションするなどコミュニケーションを図ることで、人間関係形成能力が育成される。
- ③ 親子や異世代間交流により、心のふれあいが活性化され、豊かな感性と言語感覚を磨くことができる。
- ④ 日本伝統の短詩型文学と美しい日本語への理解が深まり、正しい言葉遣いを身に付けることができる。

- ⑤ 言葉で考えていることを実体験でき、読書への意欲、語彙力や創造力の養成にもつながり、知恵と知識が育まれる。

体験活動等で味わった感動や共感を、限られた17字で表現することは、無駄な言葉や回りくどい表現を避け、磨き抜いた言葉を最適な位置に割り当て、声に出さない沈黙のつぶやきで確認することが大切なことも理解できます。俳聖・松尾芭蕉は「さび」「わび」の境地から晩年は「かるみ」の境地に到達しました。芭蕉の俳諧創作の理念「高悟帰俗（高く悟りて俗に帰るべし）」のように、日常的な題材を詠みながらも、さらりとした感じを醸し出すことです。「感動や共感を言葉で表現する」対象からのオーラが作者の琴線に触れて誕生した作品は素晴らしい評価そのものでもあると思います。令和5年度はキャッチフレーズに、「～届けたい未来へつなぐ 十七字～」を掲げて事業展開がなされました。第22回で作品応募者は、1,543,022人を数えています。事業データの分析と管理、素晴らしい。『継続は力なり』ですね。

プロフィール 佐々木 孝司 氏

- ◇ 平成 5年 福島県教育庁総務課・管理主事
- ◇ 平成 7年 福島県教育庁総務課
管理主事兼係長
- ◇ 平成 9年 福島県教育庁総務課
主任管理主事兼係長
- ◇ 平成10年 福島県立船引高等学校・教頭
- ◇ 平成13年 福島県教育庁生涯学習課・主幹
- ◇ 平成15年 福島県教育庁生涯学習・文化スポーツ領域 社会教育グループ・参事
- ◇ 平成16年 福島県立新地高等学校長
- ◇ 平成18年 福島県教育庁県南教育事務所長
- ◇ 平成19年 福島県教育庁相双教育事務所長
- ◇ 平成20年 福島県立いわき桜が丘高等学校長
- ◇ 平成22年 一般社団法人福島県病院協会
事務局長
- ◇ 平成25年 新地町教育委員会教育長 至現在



「崩壊」と「創世」の狭間で

～原子力災害から13年の福島を語る意味～

特定非営利活動法人

富岡町3・11を語る会代表 **青木 淑子 氏**



令和6年の年明け、富岡町の太平洋に上る太陽を、子安橋の上から待ち続けた。例年になく厚い雲に阻まれて、太陽は、なかなかその姿を現さない。避難指示が解除されてから7回目の初日の出、待ち受ける人々の様相も変わってきている。2018年1月1日、子安橋の中央に一塊に集まった人々は、有志による豚汁の湯気の中で静かに笑っていた。今年、漁港、バイパス、防潮堤と視界いっぱい日の出を待つ人々の輪があった。コミュニティが、ある日突然に奪われた町や村・・・福島の原子力災害の最も大きな被害は、「コミュニティの崩壊」だと私は考える。12年の時間の中で、避難指示が解除され、バリアードが外れていき、閉ざされた地域への人の出入りは再開されている。しかし、心細げに寄り添って笑顔を交わしていた5年前と、数としては数倍になるであろう人々が、それぞれに輪を作っている現在と、果たしてそこに、コミュニティの創世は進んでいると言えるのだろうか。

富岡町は、令和6年1月1日現在、人口11,516人（世帯数5,684世帯）、町内居住者2,307人（世帯数1,638世帯）。震災当時は約16,000人、6,300世帯だった町の現状である。町外に暮らす町民が約9,000人、町内に暮らす町民も、12年前に避難して町に戻った町民、仕事のために一時的に暮らす町民、移住など新しく町に暮らし始めた町民と多様化している。「ふるさと」富岡町との距離感も、そこに描く未来像も明らかに違う。地面に建てられたバリアードは外れていくが、

目に見えない心のバリアードは増えていくように思える。このバリアードを外して、それぞれの立場や状況を越えて、お互いの違いを理解して、「町の在り方」を考えなければ、町は真正銘、消滅する！

私には、かつて、この町で大きな夢（確たる目標）をもって集まって来た高校生と共に過ごした年月がある。この町は人が学び、人を育てる町だった。原子力災害などに消滅させられて終わってはいけないのだ。原発事故の及ぼす「人の暮らし」、「心のあり方」への影響、その被害を正しく語り、人として共に考える仲間を増やすこと、これが私の使命だと考え、私は「語り人」となって活動している。人の世に起こった出来事は、人の言葉で語らなければならないと考えるから。解体して更地となった光景を移した1枚の写真に、こんな句が読まれていた。「どれほどの思いで壊す我が家かな」ことばとは、このように心を伝えるものなのだ。

プロフィール 青木 淑子 氏

- ◇ 昭和23年 東京生まれ
- ◇ 昭和39年 福島県郡山市に移住
- ◇ 昭和45年 福島大学教育学部卒業
福島県内県立高校・国語科教員
演劇部顧問
- ◇ 平成16年 福島県立富岡高等学校校長
福島県高等学校演劇連盟会長
- ◇ 平成24年 富岡町社会福祉協議会
アドバイザー
- ◇ 平成27年 富岡町3・11を語る会 代表
- ◇ 平成29年 福島県富岡町に移住
国際アート&デザイン専門学校
声優科 講師
日本演劇教育連盟 会員
日本演出者協会 会員

令和5年度社会教育功労者文部科学大臣表彰

「家庭教育を支援する会」とともに

郡山家庭教育を支援する会
顧問 津田 智 氏（郡山市）



このたびの社会教育功労者の受賞は望外の喜びであり関係機関の皆様のご努力により御礼申し上げます。

「郡山家庭教育を支援する会」は、前身の「郡山家庭教育を考える会」（昭和57年度設立）の実績を受けて、社会の急激な変化に対応した家庭教育の重要性を踏まえ、平成21年度に組織した団体です。

本会は、（1）家庭教育に関する援助、奉仕（2）家庭教育に関する研修（3）会員相互の親睦（4）他の関係機関との連携を目的にして、次のような活動を展開しております。○小中学校の家庭教育学級への援助（講師）○就学前子

育て講座の援助（講師）○会報「心豊かに」の発行○子育て事例集「ともに生きる」の発行など。

本会は、現職を定年退職した小中学校の教職員を会員とした団体であります（40名前後）。

家庭教育の在り方について、近年は頓に変化が多様化して、課題解決を困難にしている傾向もありますが、今後も「不易と流行」に立脚し、あらゆる機会を活用した会員相互の研修が一層必要と考えられます。

最後になりましたが、今回の受賞は、本会の先人・先輩、支援する会会員のご理解ご協力に支えられた賜物であることを記して稿を閉じます。

令和5年度社会教育功労者 文部科学大臣表彰を受賞して

**元会津若松市社会教育委員の会議
議長 森 武久 氏（会津若松市）**



「先生、受賞決定おめでとうございます。新聞報道を見て分かりました。」の電話を受け取りました。それは我が事のような喜びの電話でした。この受賞は私一人のものでなく関係各位みんなのものだと思っております。後に授賞式への参加の有無が問われましたが、みんなの賞なので即座に「出席します。」と答えました。

38年間学校教育に携わり、退職後縁あって社会教育指導員を務めたのが社会教育のスタートでした。対象は老若男女、とてもフレッシュな気分で共に学び合いが展開されたことが思い出されます。

3年間の勤務を解かれ、顕彰会活動、人材育成のための会津育英会の事務局理事、勤労青少年ホームの運営、文化振興財団の理事などの役目を経験し、現在も関わり続けております。

会津若松市社会教育委員に任命されたのは平成23年9月でした。組織構成は幅広く、大人の専門家がおられ、議論百出でした。近隣市町村の会議や講演会でも情報の共有交換は積極的に行われ切磋琢磨し、資質の向上が図られました。もちろん県教育庁社会教育課の先生方からの適切なアドバイスは私たちの常日頃の悩みを払拭していただきました。ありがとうございました。

第76回優良公民館文部科学大臣表彰

国見町公民館

国見町公民館は、観月台文化センターを拠点として、子どもも大人も楽しく学ぶ機会を提供するため様々な事業を展開しています。

1 青少年教育(地域学校協働活動)

取り巻く環境の変化により体験の機会が少なくなっている子どもたちの豊かな人間性を育むため、放課後や週末などに「国見っ子わんぱく広場(小学1～3年生)」「少年仲間づくり教室(小学4～6年生)」などの様々な体験・交流活動を実施しています。地域住民の協力により世代間の交流、地域社会の教育力の向上を図るとともに、地域住民の自己実現や生きがいづくりも推進しています。



2 くにみ観月台カレッジ

令和4年度より、これまでの女性・成人・高齢者の3学級を統合し、「くにみ観月台カレッジ」としました。全体学習(年6回)、クラス学習(3クラス)、グループ学習(16グループ)を学級生が主体となり運営しています。「地域とつながり 学びを選び 自由に学ぶ」自主的な生涯学習の取り組みが進み、学びの広がりにあわせて、参加者が増加しています。



これからも、「人・地域との出会いふれあい」「人と学習・スポーツの結びつき」を大切にしながら、社会情勢の変化に合わせた新しい感覚をもち、社会教育に取り組みます。

第76回優良公民館文部科学大臣表彰

会津若松市大戸公民館

会津若松市大戸町は市内でも高齢化率が高い地域で、人口減少や少子化も伴って地域の活力低下が懸念されています。そうしたなか、大戸町全14地区の区長会が中心となって、地域の特性を再発見し、地域が抱える課題を解決しようと「大戸まちづくり協議会」が令和2年に発足いたしました。

大戸公民館は、地域生涯学習としての機能に加え、同協議会の活動の拠点となることで地域の課題解決に取り組む人々に寄り添うという役割を果たして来ました。



活動の一環として行ったのが住民の声を生かした防災マップの作成です。公民館と同協議会が連携し、住民参加型のワークショップを開催。地区ごとに危険箇所を確認、マップに盛り込みました。

この度の受賞は、大戸の皆さんのこうした熱心な地域活動が評価されたものであり、地域全体で喜びを共有するとともに、今後とも「地域課題に寄り添う公民館」として魅力あるまちづくりに尽力して参ります。



令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

郡山市立芳山小学校父母と先生の会

この度は「優良PTA文部科学大臣表彰」という大変光栄な賞を受賞させていただき、ありがとうございます。今回の受賞は、ひとえに本校PTA活動の礎を築いてこられた先輩の保護者の方々や地域の皆様、そして学校関係者の力があつたからだと思えます。本校は、明治33年に郡山第二尋常高等小学校として開校し、今年で123周年を迎えました。市の中心部に位置し、周りには中学校や高等学校、文教施設や商業施設が並ぶ市街地にあります。

私たちPTAの活動は、「芳山の学びを支えること」を一番の目標としています。その中の活動として、芳山で学び育つ子どもたち



の姿を広く県内外の先生方に公開する「芳山教育研究発表会」では、PTAも「かおりのスタッフ」として、先生方をバックアップしております。さらに、「かおりのバザー」や会報「かおりの園」の発行、多彩な講師を招いての教養講座、親睦を深める親善球技大会等、楽しく生き生きと活動しております。



今回の受賞は、学校や地域の皆様に支えられてきた歴史と伝統あるPTA活動の成果と感謝しております。今後も多くの皆様と協力し、この賞に恥じることがないよう、「子どもたちのために」をスローガンに学校の教育活動を支えてまいりたいと存じます。

令和5年度優良PTA文部科学大臣表彰

喜多方市立堂島小学校父母と教師の会

創立150周年という大きな節目に、本校PTAがこのような栄えある賞をいただいたことは、地域の方々や堂島小学校にとって本当に大きな誉れです。この背景には、歴代PTAや地域の方々の「地域の子どもは、地域で育てる」という代々引き継がれた熱い思いがあります。「学校・家庭・地域が一体となる」という姿が、この堂島小学校の教育活動では昭和の時代から既に実現していました。

まずは農業体験学習（現農業科）です。昭和62年度に地域理解と豊かな心情を育てることを目的に、稲作栽培体験学習として始まりました。生産の全過程の作業を地域の方から学び、最後に餅をつい



て食べるという流れは今も受け継がれています。次に土曜教室です。平成14年度の学校完全週5日制開始とともに始まった、地域の方々が主体の事業です。



現在はPTA主体で年4回実施しており、会津型やかかしづくり、茶道教室、門松づくりと通年または季節に合わせた様々な体験教室が開かれており、児童の楽しみのひとつになっています。

他にも学校教育に地域の方が関わる機会が多くあり、児童と地域の方のよい関係づくりの場となっています。この受賞を励みに、今後も地域全体で心豊かな堂島っ子の育成に努めてまいります。「地域の子どもは、地域で育てる」を合い言葉に。



令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰

矢祭もったいない図書館

矢祭町は、福島県及び東北の最南端に位置し、人口5,300人の町です。毎年3月下旬に東北のトップを切って、県指定緑の文化財であるエドヒガンザクラ「戸津辺の桜」が咲きます。

矢祭もったいない図書館は、平成19年、全国からの寄贈図書により開館しました。平成21年から開催されている「矢祭子ども司書講座」と「手づくり絵本コンクール」は、今年で15回を迎えました。これまでの認定子ども司書数は180名、絵本コンクールの応募総数は2,754点となっています。

乳幼児期の取組としては、「絵本紹介ガイドブック」の制作や「ブックスタート」と「おはなしかい」の定



手づくり絵本コンクール一次審査会

期的な開催を行っています。毎月第3日曜日を「矢祭町読書の日」と制定し、町内各地域23カ所のもったいない文庫で行っている

「おはなしかい」では、子ども司書の認定を受けた読書推進リーダーがチラシづくりや読み手となって活動しています。



季節の出前おはなしかい

開館17年を迎え、これまでの活動が評価され文部科学大臣表彰を受賞いたしました。読書活動の推進にご支援・ご指導をいただいております関係各位、地域の皆様方に感謝を申し上げます。

これからも、子ども達が読書の楽しさを実感できるように、職員一同新たな気持ちで取り組んで参ります。

令和5年度子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰

相馬の街中図書館【こども文庫「にじ」】

佐藤 史生 氏 (相馬市)



「僕が日曜日に行く所は、にじ文庫です。文庫の先生に勧められて読んだのが『チョコレート戦争』。おもしろくて一日で読んでしまいました。文庫のドアを入ると木の香りで森の中で読んでいるみたいです。楽しいイベントもあります。折り紙の先生が来て竜・トナカイ・カマキリなどの折り方を教わりました。魔女おばさんが来て本を読んでもくれました。にじ文庫は僕の大事な場所です。」(RAさん)

- 平成24年9月 みんなとつなぐ みんなの場所(こども文庫「にじ」)相馬市中村字大町32に開設。29㎡
- 蔵書約3500冊 画家蟹江杏子の呼びかけ「東日本大震災で被災した相馬の子ども達へ」寄贈された本が中心。

- 毎週火・木・日曜日10時～17時開館
- 画家蟹江杏子中心にプロのアーティストを招いて、ワークショップを随時開催。
- 親子で絵本の話などで交流を深める「絵本の集い」(毎月月末の日曜日)
- 30冊余の箱、60箱、市内全部の小学校の学級文庫に配置。「お絵かきの所、落ち着く木の建物。心温まる絵本、ドキドキハラハラのミステリー、読み継がれた名作。これらが私を励ましてくれます。楽しい笑顔の文庫です。」(SKさん)



令和5年度「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰 郡山市家庭教育支援チーム のびのび子育てサポーター

こんにちは！郡山市家庭教育支援チーム「のびのび子育てサポーター」です！

「のびのび子育てサポーター」は平成5年4月から活動を開始し、“親子の居場所づくり”や“家庭教育力の向上”のための活動をしています。現在のメンバーは12名。メンバーの中には「のびのび子育て広場」OGが6名います。

現在の主な活動は「はやママサロン」と「のびのび子育て広場」です。

「はやママサロン」は親子で自由に入出りできる郡山市立中央公民館託児室を利用し、毎週水曜日の午前中に開催しています。参加者同士が交流しやすいよう見守りながら、子育て相談や絵本の読み



聞かせ、手遊びなどを行い、居心地の良い親子の居場所づくりに努めています。

「のびのび子育て広場」は郡山市立中央公民館和室を利用し「0歳児広場」を1広場、「1歳児広場」を2広場、「就学前広場」1広場の計4広場を年間延べ48回開催しています。参加者が主体となって活動できるような企画・運営を心がけ、家庭教育力の向上を図れるよう支援しています。



より多くの参加者の皆様に楽しんでいただき、子育てが一段落したら、今度は様々な場面で支援者の立場となって活動をしていただけることが、私達「のびのび子育てサポーター」全員の願いです！

社会教育課事業 Photo Gallery



【ふくしまの未来へつなぐ
体験応援事業成果発表会】



【ふくしまの未来へつなぐ
体験応援事業成果発表会】



【地域学校協働活動事業
推進フォーラム】



【第9回ビブリオバトル福島県大会】



【家庭教育支援チーム
スキルアップ研修会】

社会教育
課事業の
様子を
「note」で
配信して
います。





令和5年度社会教育関係各種受賞者 令和6年度福島県社会教育施設行事予定

表彰区分	被表彰者氏名・被表彰団体名	受賞月日	表彰者
社会教育功労者	元郡山家庭教育を支援する会会長 津田 智 氏 (郡山市) 元会津若松市社会教育委員の会議議長 森 武久 氏 (会津若松市)	2月9日	文部科学大臣
優良公民館	国見町公民館 (県北) 会津若松市大戸公民館 (会津)	2月9日	
「家庭教育支援チーム」の活動の推進	郡山市家庭教育支援チーム のびのび子育てサポーター (県中)	2月9日	
優良PTA	郡山市立芳山小学校父母と先生の会 (県中) 喜多方市立堂島小学校父母と教師の会 (会津)	11月24日	
PTA活動振興功労者	福島県PTA連合会 元会長 成澤 勝蔵 氏 (会津若松市)	11月24日	
	福島県PTA連合会 元会長 誉田 憲孝 氏 (福島市)	11月24日	
	福島県立会津支援学校父母と教師の会 元会長 安藤 美幸 氏 (会津若松市)	11月24日	
	福島県高等学校PTA連合会 元会長 石川 直哉 氏 (郡山市)	8月25日	
子供の読書活動優秀実践図書館・団体 (個人)	【図書館】 矢祭もったいない図書館 (県南) 【個人】 佐藤 史生 氏 (相馬市)	4月23日	
社会教育功労者	日本ボーイスカウト福島連盟県北地区協議会長 本多 勉 氏 一般財団法人福島県婦人団体連合会監事 齋藤 七重 氏 元福島県市町村社会教育委員連絡協議会副会長 嶋原 明壽 氏 地域家庭教育推進南会津ブロック会議会長 渡部キヨ子 氏	11月7日	
功績顕著な団体・施設	【団体】 喜多方市立松山小学校父母と教師の会 (会津) いわき市立上遠野小学校PTA (いわき) 【施設】 川俣町中央公民館 (県北) 郡山市立桑野地域公民館 (県中) 相馬市東部公民館 (相双)	11月7日	
全国社会教育委員連合	星 美法 氏 (猪苗代町) 佐藤 葉子 氏 (相馬市)	11月9日	(社) 全国社会教育委員連合会長
日本PTA全国協議会	【団体】 いわき市立植田小学校父母と教師の会 伊達市立桃陵中学校父母と教師の会 【個人】 前福島県PTA連合会副会長 平塚 康晴 氏 福島県PTA連合会副会長 安藤 正希 氏 福島県PTA連合会副会長 張崎 貴裕 氏	11月24日	(社) 日本PTA全国協議会長
東北地区社会教育委員連絡協議会	安田 仙松 氏 (川俣町) 小松 静江 氏 (中島村) 羽根田 ヒサ 氏 (国見町) 山名田久美子 氏 (下郷町) 遠藤 敦子 氏 (郡山市) 佐藤 暁美 氏 (いわき市)	10月13日	東北地区社会教育委員連絡協議会長

福島県立図書館	福島県立美術館	福島県立博物館	福島県自然の家
<ul style="list-style-type: none"> ○「福島を生きる」連続講座と関連展示 ○「福島県文化財センター白河館(まほろん)移動展示」6/7(金)～7/3(水) ○「福島県歴史資料館移動展示」9/6(金)～10/2(水) ○「福島県立博物館移動展示」12/6(金)～1/8(水) 	<ul style="list-style-type: none"> ○美人画の雪月花展 3/23(土)～5/12(日) ○福島の美術家たち2024展 5/25(土)～7/22(月) ○福島県立美術館の歩み展 8/3(土)～9/16(日) ○ポップアート展 10/12(土)～12/1(日) ○かがくいひろしの世界展 1/25(土)～3/9(日) ○THE 新版画展 3/22(土)～5/25(日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○幕末明治の浮世絵百年 一大江戸の賑わい 4/27(土)～6/16(日) ○会津・磐梯山麓の縄文交流 7/6(土)～9/1(日) ○ふくしまの酒造り 一酒を醸し和を醸す 9/21(土)～12/1(日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○郡山自然の家 みどりのオープンデー 6/2(日) ○会津自然の家 はじめてキャンプ 6/1(土)～6/2(日) ○いわき海浜自然の家 春のオープンデー 5/26(日)

編集後記

「ふくしま絆ふれあい支援事業」は、今年度で22年目を迎え、これまでの応募数は、771,511組(1,543,022人)に上りました。子どもと大人、子ども同士のペアが、共通体験や思いを十七字で読み合う活動をとおして心の交流を深めるものとして平成14年度に創設し、東日本大震災を経て、人と人との絆を強めるとともに、風評・風化の防止や心の復興などの役割を担う事業として現在に至っています。今後も事業が継続し、福島県の子どもの豊かな心を育成し、家庭と地域の絆を強め、ふくしまの輝かしい未来へと繋げていきたいと考えています。

【届きたい 未来へつなぐ 十七字(令和5年度キャッチフレーズ)】

令和6年3月19日発行
社会教育 No. 344

編集 社会教育課
発行 福島県教育委員会
福島市杉妻町2-16